

尿路管理に注力 CRカセット速写機能は DIPにベストチョイス



技師長 高橋 博史 先生

尿管管理を得意分野とするなか DIP専用機として導入

当院は枚方市の北東部に位置する 580 床の病院で、地域の中核病院として地域医療支援病院の認可を受けており、急性期から回復期のリハビリテーションまで幅広い診療を提供しています。さらに地域のがん診療連携拠点病院として、北河内地区 7 市のがん診療の中核を担っています。

開院当初からリハビリテーションへの取り組みが非常に盛んで、脊髄損傷や脳卒中などの総合的なリハビリに加え、それに伴う尿路管理を得意分野としており、全国から入院患者様を受け入れています。そのため DIP や膀胱造影などの泌尿器検査が非常に多く、とても珍しいケースですが泌尿器検査の専用室が 2 室あり、一日中泌尿器科の先生が詰めて検査をしているという状況です。今回はその 2 室のうち 1 室の更新に伴い、主に DIP を行う装置として FLEXAVISION を導入しました。

カセット速写が簡単に行え DIPにベストチョイス

FLEXAVISION を選んだ一番の理由は、カセット速写ができる点です。フラットパネルの X 線テレビは DIP 専用には少し贅沢ですし、I.I. デジタルは必要な撮影領域が得られません。従って、半切サイズのカセットで CR 撮影ができるこの装置に決めました。DIP の検査件数はだいたい日に 3~4 件で、1 件の DIP 検査に 1 時間弱かかります。検査手順は造影剤注入直後、10 分後、20 分後を臥位で撮影します。その後、立位で撮影し排尿後に臥位で撮影します。DIP は尿路が造影されている状態をタイミングよく撮影することが重要です。この装置の大きな特長は透視後すぐにカセット速写ができることです。この機能を使うことで診断能に優れた写真の提供が可能になりました。さらに、カセットの装填もワンタッチで簡単にでき、非常に助かっています。他の装置にもカセット撮影ができるタイプがりましたが、



トレーにカセットを入れる必要があったり、カセットを入れると透視ができなかったり不便がありました。FLEXAVISION は DIP 検査にベストチョイスではないでしょうか。

狭い搬入口にも対応できる コンパクト設計

選んだもうひとつの理由は、間口が 75 センチと非常に狭い扉から搬入できたことです。扉を付け替えることなく搬入でき、ありがたかったです。いろいろな搬入事例に対応できることは大きなことだと思います。撮影室も決して広くはありませんが、コンパクトな設計なのでワークスペースとして支障を感じたことはありません。また、装置のデザインが良かったことも選定理由のひとつです。他社はちょっと古い感じの製品が多かった中で、この装置は「きれいだな」という印象を受け、新しさを感じました。

患者様にもスタッフにもやさしい 寝台昇降機能とベッドサイドコントローラ

車椅子で来られる脊髄損傷や脳卒中の患者様は、スタッフが抱えて寝台に乗せなければなりません。女性スタッフもいますので、寝台位置が高いと非常に苦勞します。また、患者様にとっても負担になる場合があります。そのような理由から寝台昇降は大変ありがたい機能です。意外と低い位置まで寝台が下がるのには驚かされました。検査では寝台の起倒を頻回に行います。この装置は寝台横のベッドサイドコントローラで寝台の横移動や起倒ができ、患者様の状態を見ながら操作が可能です。安全性と使いやすさを兼ね備えたすばらしい機能だと思っています。

用途に合わせ 効率良いシステムを構成可能

この装置には I.I. デジタルをはじめいろいろなオプション機能が多数用意されていて、ユーザーの用途に合うシステム構成が可能です。当院では DIP 専用機ということで導入目的がはっきりしていたので、逆に必要のない機能は省いて購入しました。必要な機能をチョイスし、効率よくシステムを構成できるので、コストパフォーマンスの高い装置だと思います。

導入を
お考えの先生への
一言

目的に合ったいろいろなシステム構成を組めるところは、無駄もなく費用の点からも効率的ですのでお勧めできる点です。その他、ベッドサイドコントローラなど非常に使いやすく、患者さんだけでなくスタッフにもやさしい装置です。